

# \* 研究授業からの学び \*

2021.12.9  
No.2  
文責 新玉

令和3年 10月20日(水)  
西土佐小学校 第4学年 総合的な学習の時間 大堀 真由子 教諭  
単元名 「すてき発見! 四万十川」(全70時間)  
小単元2 「四万十川の現状について考えよう」(27時間)

## <単元でつけたい力>

- 四万十川の良さや特徴に気づき、それらが環境問題と保全に関わる人々の努力や工夫によって支えられていることを知る。【知識及び技能】
- 四万十川の現状から問いを見出し、その解決に向けて話し合ったり、調べて得た情報を基に考えたりする。【思考力、判断力、表現力等】
- 自分たちが設定した課題の解決に向けて、自分にできることを他者と協働して取り組む。【学びに向かう力、人間性等】

## 本時の目標

地域の方々や観光客に聞き取ったこと等をまとめ、比較し、整理・分析することができる。

## 本時の評価規準

課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。【思】

四万十川には200種類以上の生き物がすんでいるよ。昔は川が遊び場だったんだね。

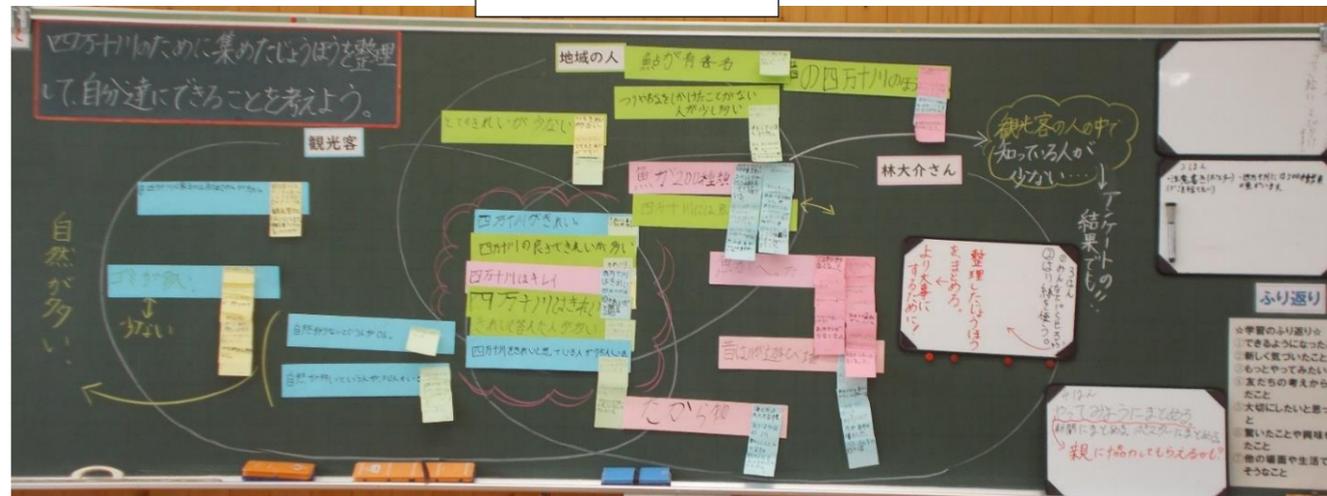


本時の授業風景



魚が減ってきて昔よりきれいじゃなくなったという声もあるけど、観光客も西土佐の人も、四万十川はきれいと言っているよ。

本時の板書(10/20)



## 研究協議より(抜粋)

### 授業者より

- 子どもたちは、四万十川について1学期から調べてきた。その中で、地域の人々の思いに気づかせるように取り組んできた。
- 観光客・地域の人・昔の人など多面的に課題について考えることができた。
- 四万十川の魅力を実感する上で、地域愛を養うことにも繋がったのではないだろうか。
- 地域の人々の思いに気づかせる発問が最後になったのが心残りだ。
- 分析の時間にゆとりをもっていたら、児童の思考がより深まったのではないだろうか。
- 子どもと教師のやり取りとなっていたため、子どもと子どもとのやり取りとなるような働きかけを行っていく。

### 参観者より

- 教師が、見方、考え方を適切に押さえながら話し合いを共有していた。
- 「誰に」「何のために」と、相手、目的意識をもたせた授業だった。
- 子どもの考えが、整理・分析につながっていた。
- ベン図、ピラミッドチャートを使ってまとめ思考の視覚化ができていて、前時までの資料を活用して考える授業だった。
- 短冊を色分けしたことで分かりやすく、まとめたことを指差しながら気づきを発見していた。
- 友達の意見を聞いて気づきをつなげることができるとよかった。
- グループ思考や全体での共有から、子どもの考えを深めることができるとよかった。

### 指導主事より

- ・担任を中心として学校全体で単元について考えてきたことがわかる。地域の一員として、地域に愛着をもてる
- ・探究のプロセスの中でも、「整理・分析」「まとめ・表現」は十分な取り組みができないうちがある。今回は整理・分析で終わらず、次の活動に取り組むことができてよかった。
- ・教師の切り返しがよく、子どもたちが自分の思いを自分の言葉で伝えている。
- ・地域の人々の話から分かったことや感じたことを考えさせることができたよかったです。

### 授業者のリフレクションより

児童にとって身近な存在である四万十川と日常生活とを関連付け、自分事として地域の課題を設定させていきたい。なお、アンケート分析や魅力発信の方法の一つとして、ICTをより活用していく。

子ども同士の中で表現方法が偏っていたため、幅広く表現方法を探させ、児童にとっての選択肢を広げていくようにする。

知識のベースを培うために他教科との関連を持たせ、日常生活の中でも問いや気づきに繋げさせていきたい。

### ☆これから取り組んでいきたいこと

- \* 気づきと気づきをつなげる時間の確保
- \* 日常生活の中の疑問を探究
- \* ICTの多様かつ効果的な活用